

お茶の水女子大学所蔵外邦図コレクションの全体像

宮澤 仁・高槻 幸枝・大浦 瑞代・田宮 兵衛・水野 勲

I. はじめに

外邦図とは、明治以降、第二次世界大戦の終了までに旧日本陸軍参謀本部・陸地測量部が作製・複製した、中国や満州、東南アジア、太平洋諸島など、日本以外の地域を対象とした地図のことである（長岡、1993；渡辺、1999；田村、2000）。ただし、広義には、台湾や朝鮮、樺太などの旧領土の地図を含み、作製主体や用途の点でも、植民地政府作製の地質図や旧日本海軍水路部が航海用に作製した海図、終戦直前に本土決戦を意図して地形図と海図を組み合わせて作製した陸海編合図なども含めることができる（小林、2006）。

これらの外邦図は、現在、お茶の水女子大学をはじめとする国内の複数の大学と国立国会図書館、岐阜県図書館世界分布図センター、国土地理院などの機関が所蔵している。敗戦により連合国軍に接収されるか処分される運命にあった外邦図が、現在まで消失・散逸せずに残っているのは以下の経緯による（久武、2005）。

第一に、終戦直後、その資料的価値を認識していた複数の地理学者が、大本営の参謀であった渡辺 正少佐の仲介を受けて、東京市ヶ谷の参謀本部に収蔵されていた多くの地図を大学等に緊急的に避難させた。当時の受け入れ先としてこれまでに判明しているのは、文部省資源科学研究所（当時）、東北大学、東京大学、名古屋大学である。第二に、それらの機関のなかでも特に大量の地図が運び込まれた資源科学研究所と東北大学からは、他の機関へ再配布が行われた。

お茶の水女子大学が所蔵する外邦図の大部分も、京都大学、立教大学、筑波大学、広島大学などと同様に、資源科学研究所から再配布されたものである。同研究所から本学地理学教室に異動された故・浅井辰郎教授が、研究所の廃止に伴って1970年に16,000枚弱の地図を大学の予算措置を

得て購入した（浅井、1999）。この枚数は、資源科学研究所からの再配布において最大規模であった。それらの地図に、東京女子高等師範学校時代に収集した地図、関係者から寄贈された地図をあわせたものが本学の外邦図コレクションであり、これは現在、文教育学部地理学教室の地図室に保管されている。

外邦図の当初の作製目的は、軍事的必要性や植民地経営への関心に基づくものであったと考えられる。しかしながら現在では、変化の著しいアジア・太平洋地域における19世紀末から20世紀前期の地表環境の記録として、また近代地図の作製史・技術史の研究資料として、学術的な価値が認められており、地理学のみならず歴史学や地図学、地域研究、環境科学など幅広い研究分野で注目されている。

例えば、LU/GECプロジェクト（地球環境保全に関する土地利用・被覆変化研究）における中国の土地利用変化研究では、1930年代の土地利用の復元に外邦図が用いられるといった実績がある（水見山幸夫ほか、2000；Kikuchi *et al.* 2000）。

さらに近年、地理学ならびに地図学の研究者・専門家を中心とした外邦図の研究プロジェクトが組織され、科学研究費補助金や各種財団の助成を受けて、様々な研究が進行中である。このプロジェクトでは、外邦図の集成と目録の整備（東北大学大学院理学研究科地理学教室、2003；京都大学総合博物館・京都大学大学院文学研究科地理学研究室、2005；お茶の水女子大学文教育学部地理学教室、2007）、当時の地図作製や測量技術の解明（渡辺・小林、2004；長澤、2005）、戦争遂行と地誌・地図の関係（源、2004）、戦後の外邦図の来歴調査（久武、2005）、そして外邦図のデジタル化とアーカイブの構築（宮澤ほか、2004；村山ほか、2005）など、幅広い取り組みがなされている。

本稿では、このプロジェクトの一環として刊行された『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』（お

茶の水女子大学文教育学部地理学教室、2007) を紹介するとともに、目録の編集作業から明らかになった本学の外邦図コレクションの全体像とその特徴について解説する。また最後に、外邦図の所蔵機関として、本学が抱える課題を指摘する。

II. 『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』

本学では、資源科学研究所から多数の外邦図を購入後、1971年の整理作業において地図を191冊の冊子に綴じ込み、同時に目録と索引図を作成した。しかし、この目録は、対象地域または地図の種別と縮尺を組み合わせで設定された系統ごとに地図の枚数を集計したものであり、地図一点一点の詳細な情報を掲載したものではなかった。また、資源科学研究所から購入したものではない地図の情報は掲載されておらず、その後もコレクション全体の詳細な目録は作成されないままであった。さらに、地図自体も他の資料の増加に伴って、いつしか棚や床に積み上げられるようになり、閲覧すら困難な状態となっていた。

このような状況のもと、2002年度より既述のプロジェクトに本学教員が参加し¹⁾、研究費の配分を受けて新たな目録の作成が開始され、2007年1月に『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』が完成、刊行された(写真1)。

今回の目録は、対象を資源科学研究所から購入した地図以外にも拡大し、収録項目も、保管棚、地域名等、記号、図幅名、縮尺、緯度・経度、縦・横の長さ、大きさ、色、測量機関、測量時期、製版・印刷機関、製版時期、発行時期、枚数、備考の16項目におよぶ(表1)。収録地図は16,000

点余りとなった。ただし、それらには、戦前・戦中期の国内地形図など、必ずしも外邦図の範疇に入らない地図が相当数含まれている。これは、資源科学研究所から入手した地図に国内地形図が多数含まれていたことにもよるが、本目録を、戦前・戦中期のアジア・太平洋地域を対象とした地図の日録と位置づけることを意図して収録対象を外邦図以外の地図にも拡大したことによる。

目録の冒頭には、浅井辰郎先生が月刊『地理』(古今書院刊)に寄稿予定で執筆中であった遺稿「資源科学研究所の地図の行方—多田文男先生の英断」をご遺族の了承を得て掲載し、あわせて甲南大学文学部長の久武哲也先生による解説を掲載した。これらの文章により、資源科学研究所を通じての外邦図の再配布の詳細が初めて明らかにされた。附録として、1971年に作成された先の目録を収録した。

以下に、目録編集の作業内容とその手順を記録

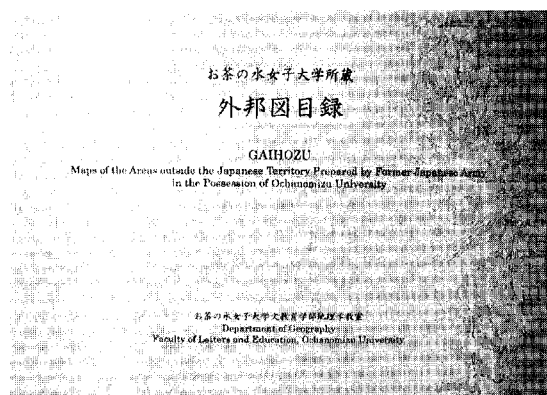


写真1 『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』
(A3版、234頁)

表1 『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』収録項目等

| | | | |
|----|--|----------|-------------|
| 解説 | お茶の水女子大学所蔵の外邦図について 大浦瑞代・高橋幸枝・宮澤 仁 | | |
| | 資源科学研究所の地図の行方—多田文男先生の英断 浅井辰郎(解説 久武哲也) | | |
| 目録 | 収録対象 索引図、国内地形図、旧領土地形図、外国地形図、兵要地誌図、航空図、 陸海編合図、海図等 計16,886点 | | |
| | 収録項目 | | |
| | 1) 保管棚 | 5) 縮尺 | 9) 色 |
| | 2) 地域名等 | 6) 緯度・経度 | 10) 測量機関 |
| | 3) 記号 | 7) 縦・横 | 11) 測量時期 |
| | 4) 図幅名 | 8) 大きさ | 12) 製版・印刷機関 |
| | | | 13) 製版時期 |
| | | | 14) 発行時期 |
| | | | 15) 枚数 |
| | | | 16) 備考 |
| 附録 | 東半球大縮尺図総目録及び索引図(1971年作成) お茶の水女子大学地理学教室 | | |

として示しておく（大浦、2003；高槻・大浦、2005）。作業は、まず本学所蔵図の正確な枚数の調査と、東北大学所蔵図との重複の確認からはじめ、次に地図一枚一枚について前述の16項目の情報を取得、これらの情報を表計算ソフトに入力し、最後にこのデータから印刷用の版下を作成するという手順で進めた。掲載項目の選定や目録のレイアウトは、先行して目録編集を行っていた東北大学地理学教室ならびに京都大学総合博物館・地理学教室の作業内容を参考に決定した。特に東北大学地理学教室からは、目録のデータファイルの使用と一部データの転用（両大学が共に所蔵する地図の情報など）の許諾を受けるなど、大きな支援を得た。

最も時間と労力が必要となる、地図からの情報の取得と、表計算ソフトの情報の入力、長期休暇の度に学部生・大学院生からアルバイトを募って進めた。作業は、外邦図の現物を傍らに置き、一人または二人一組で地図から必要な情報を読み取り、その内容を東北大学の目録データを元に作成した記入用紙に転記し、さらに、この用紙に記入された情報をパソコンの表計算ソフトに入力するというものである。本目録は、これらの地道な作業を担当した学部生・大学院生に多くを負っている。

Ⅲ. 外邦図コレクションの全体像

以上の目録の編集作業を通じて、本学が所蔵する外邦図の全体像が明らかになってきた。また、本目録の内容は、既刊の『東北大学所蔵外邦図目録』（東北大学大学院理学研究科地理学教室2003）ならびに『京都大学総合博物館収蔵外邦図目録』（京都大学総合博物館・京都大学大学院文学研究科地理学教室、2005）にはほぼ準拠しており、3大学間での所蔵状況の確認と比較が容易である。以下では、これらの目録に掲載された情報から、本学の外邦図コレクションの全貌と特徴を明らかにしていく。

まず、本学が所蔵する外邦図の総数は、戦前・戦中期の国内地形図など外邦図に該当しない地図を除くと、図幅数にして12,909点である（複写物は除く）。東北大学の所蔵図幅数は9,953点、京都大学総合博物館は11,017点であり、国内の大学機関におけるコレクションとしては本学のものが最

大となる。

その内訳を地域別、地図の種類別に整理したものが表2である。東はアメリカ大陸から西はヨーロッパまで、北はアラスカ・旧ソビエト連邦から南はオーストラリア・ニュージーランドまで、広い範囲をカバーしている。所蔵の中心は、東アジアから東南・南アジア、オセアニアにかけての地形図であり、中国の地形図（図1）²⁾が全体の27%を、インド・ビルマのそれが同じく13%を、以下旧領土（台湾、朝鮮、樺太南部、南洋群島など）が11%（図2、図3）、満州（蒙古・関東州を含む）が11%、インドネシアが9%を占めている。地形図以外の地図としては、航空図、航空気象図、地質図、兵要地誌図、陸海編合図、海図、索引図がある。

発行の時期をみると、早いものでは1897年（明治30年）の台湾20万分の1帝国図から、1945年（昭和20年）の終戦の年に複製発行されたフィリピンの5万分の1地形図までと幅がある。1920年（大正8年）までに発行された地図は、台湾と朝鮮のものがほとんどであるが、これ以後発行の地図には中国と満州のものがみられるようになる。さらに1940年（昭和15年）以降になると東南・南アジアとオセアニアの地図が増加してくる。ただし、1944年（昭和19年）以降に発行された地図については、南方地域の兵要地誌図とフィリピンの地形図が、そのほとんどを占めている。全体としては、特に1932年（昭和7年）から1943年（昭和18年）までのおよそ10年間に発行された地図が多く所蔵されている。

次に、これらの外邦図を東北大学ならびに京都大学総合博物館の所蔵図と比較した結果をみてみる。本学と東北大学の所蔵図を比べると8,686点が重複しており、本学にはあるが東北大学には存在しない地図が4,192点、逆のケースの地図が1,267点であった。さらに、本学にはあるが東北大学には存在しない地図から、京都大学総合博物館に存在する地図を差し引くと、3大学のうち本学のみが所蔵する地図は2,743点となる。参考までに、東北大学ならびに京都大学総合博物館のみが所蔵する地図の点数を示すと、各々172点と1,293点である。

それらの内訳をみると（表2参照）、本学のみが所蔵している地図には、朝鮮や中国、満州、インドネシア（特にスマトラ）の地形図、航空図、

表2 お茶の水女子大学の外邦図コレクションと他大学所蔵図との比較

| 地域・種別 | お茶の水女子大学所蔵 | | 東北大学のみ 所蔵 | 京都大学総合 博物館のみ 所蔵 |
|--------------|------------|------------------|--------------|-----------------------|
| | | お茶の水女子 大学のみ所蔵 | | |
| 東亜 | 322 | 42 | 0 | 17 |
| 台湾 | 191 | 15 | 1 | 34 |
| 朝鮮 | 1,135 | 719 | 63 | 485 |
| 樺太南部 | 58 | 2 | 0 | 20 |
| 千島列島 | 25 | 24 | 0 | 0 |
| 南洋群島 | 31 | 4 | 1 | 0 |
| 中国 | 3,517 | 252 | 15 | 1 |
| 満州・蒙古・関東州 | 1,421 | 415 | 37 | 35 |
| フランス領インドシナ | 191 | 10 | 0 | 0 |
| インドネシア | 1,197 | 191 | 2 | 9 |
| フィリピン | 103 | 10 | 0 | 0 |
| マレーシア | 137 | 18 | 1 | 2 |
| タイ | 128 | 64 | 0 | 0 |
| インド・ビルマ | 1,643 | 84 | 5 | 5 |
| セイロン | 82 | 4 | 0 | 0 |
| アフリカ・マダガスカル | 4 | 0 | 0 | 0 |
| ニューギニア | 344 | 56 | 2 | 2 |
| オーストラリア | 320 | 8 | 0 | 0 |
| ニュージーランド | 2 | 0 | 0 | 0 |
| ニューカレドニア | 10 | 2 | 0 | 0 |
| ソロモン諸島 | 24 | 6 | 0 | 0 |
| 太平洋諸島 | 21 | 8 | 1 | 0 |
| アメリカ大陸 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| アラスカ・アリューシャン | 61 | 2 | 0 | 0 |
| ハワイ | 64 | 2 | 0 | 0 |
| グアム | 8 | 5 | 0 | 0 |
| ヨーロッパ | 39 | 4 | 0 | 0 |
| ソビエト連邦 | 26 | 2 | 5 | 0 |
| 大地域図 | 41 | 35 | 4 | 0 |
| 太平洋輿地図 | 63 | 36 | 0 | 0 |
| 航空図 | 142 | 99 | 1 | 0 |
| 航空気象図 | 87 | 87 | 0 | 0 |
| 兵要地誌図 | 73 | 73 | 1 | 0 |
| 陸海編合図 | 38 | 0 | 16 | 0 |
| 朝鮮地質図 | 78 | 78 | 0 | 0 |
| 海図 | 1,109 | 376 | 16 | 683 |
| 英国製海図 | 163 | 0 | 1 | 0 |
| 索引図 | 10 | 10 | 0 | 0 |
| 総計 | 12,909 | 2,743 | 172 | 1,293 |

資料：東北大学大学院理学研究科地理学教室（2003）、京都大学総合博物館・京都大学大学院
文学研究科地理学研究室（2005）、お茶の水女子大学文教育学部地理学教室（2007）

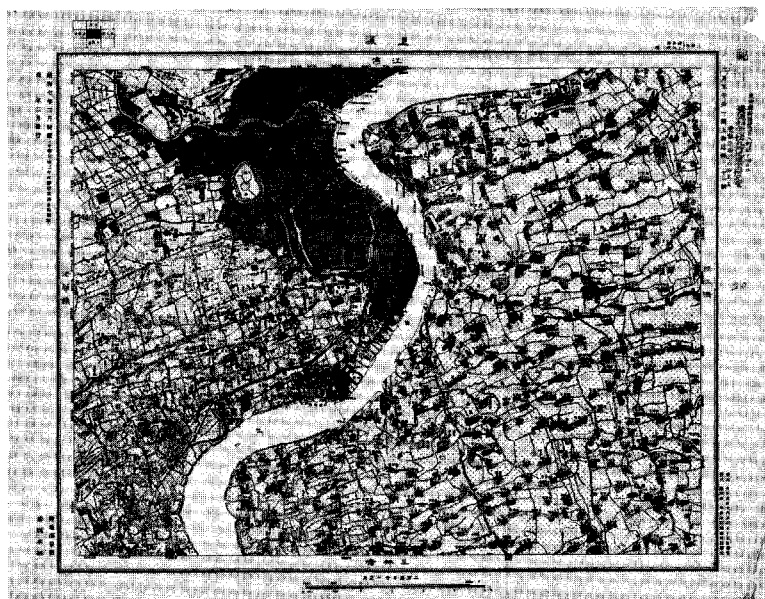


図1 中国地形図 上海

1914年（中華民国3年）江蘇陸軍測量局測図の図を基に、1932年（昭和7年）2月に日本の陸地測量部参謀本部が製版・発行した。縮尺は2万5千分の1。黒色1色刷で「秘」の印刷がある。

上海は1842年、南京条約により開港した。1843年にイギリスが上海の土地を租借すると、1848年にアメリカ、1849年にフランスも土地を租借し、外国人居留地としての租界が設けられた。1937年（昭和12年）の日中戦争後、日本軍は上海を占領したが、この図幅は占領に先立って作製されている。

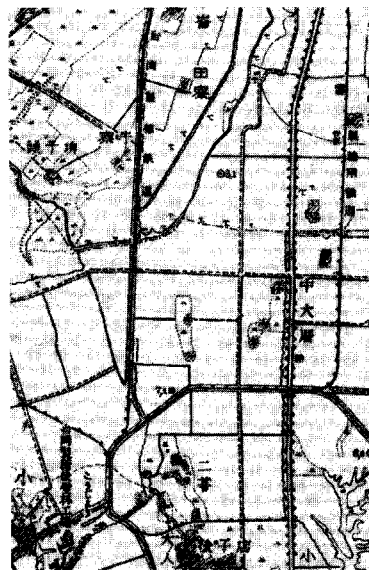
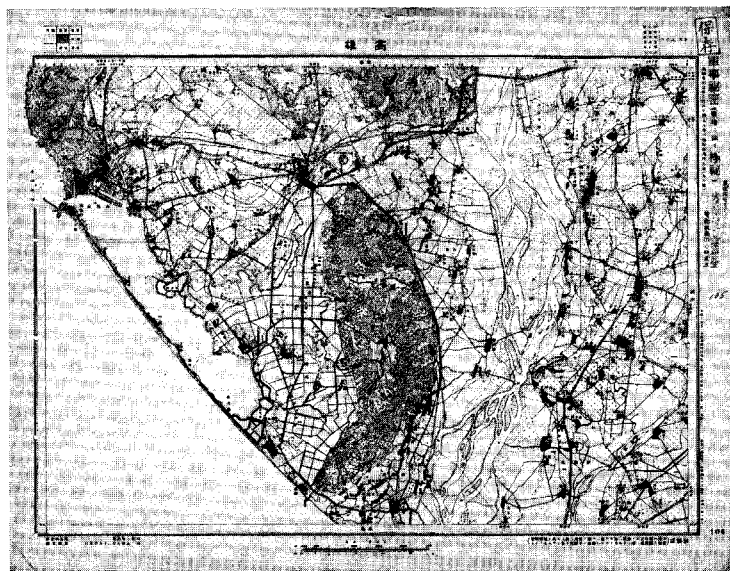


図2 台湾地形図 高雄

参謀本部・陸地測量部が1928年（昭和3年）に測図、1930年（同5年）9月に発行。縮尺は5万分の1。黒色1色刷で「軍事秘密（戦地ニ限り極秘）」の印刷がある。基隆湾の中等潮位を基準に標高を記している。

台湾は日清戦争後の1895年（明治28年）、下関条約によって日本へ割譲された。第二次世界大戦が終了（1945年）するまでその統治下にあり、米や砂糖が日本へ運ばれた。この図幅にも「台湾製糖鉄道」や「台湾製糖後壁林工場」がみえる。



図3 朝鮮地形図 京城

京城は現在のソウルである。縮尺は5万分の1。1918年（大正7年）測図、1937年（昭和12年）第2回修正測図、1941年（昭和16年）4月印刷・発行。著作権は朝鮮総督府が所有し、印刷と発行は日本の陸地測量部が行っている。黒色と水色の2色で刷られ、「(定価金拾八銭)」という印刷がある。

1876年（明治9年）の日朝修好条規締結後、日本は釜山・元山・仁川を開港し、日清戦争（1894～95年）に勝利すると朝鮮半島に鉄道を敷設した。この図幅にも「京義本線」（京城—新義州）・「京釜本線」（京城—釜山）・「京元本線」（京城—元山）がみえる。

航空気象図、兵要地誌図、朝鮮地質図、海図が多いことがわかる。他方、京都大学総合博物館のみが所蔵する地図には、旧領土の地形図と海図が多く、東北大学に関しては目立った特徴がみられない。このような違いには、以下の理由が考えられる。

第一に、終戦直後、参謀本部から資源科学研究所と東北大学に外邦図が運び込まれた時点で、前者に渡った図幅の方が多かったということがある。そして、資源科学研究所からの再配布においては本学が最も多くの外邦図を受け入れ、京都大学の受け入れ数を大きく上回っていた（久武、2005）。第二に、本学と京都大学総合博物館の外邦図コレクションには、参謀本部から持ち出されたもの以外にも、独自に収集・入手した地図が多数存在することである。本学には東京女子高等師範学校時代に購入した旧領土と満州の地形図が存在し、京都大学総合博物館には一般には入手が不可能であったと考えられる1910年代初頭発行の朝鮮の略図や、海軍省から寄贈された明治期発行の海図がある。第三に、東北大学と京都大学総合博物館のあいだでは一方のみが所蔵している地図の交換に

よる補完が行われたことが挙げられる。その規模は各々5千点程度と推測されるが、京都大学総合博物館には所蔵枚数が1枚のみの地図も多かったため、東北大学は複写物を多く受け入れることになった。

以上から、本学の外邦図コレクションは大学機関のものとしては最大規模であり、本学だけに存在する稀少な地図も多いことが分かった。また、コレクションの大半を占める資源科学研究所から再配布を受けた地図は、終戦時に参謀本部が所蔵していたものであること、その多くが1932年からおよそ10年の間に発行された地図で、それ以前のものは少ないこと、などもその特徴である。

IV. 特色のある地図

本学の外邦図コレクションには、旧領土、特に朝鮮の地形図が多数含まれていることを指摘した。その多くは1918年（大正7年）に発行された、併合後の土地調査事業における三角測量の成果に基づく5万分の1図であり、さらに、その後これらに一部修正を加えて発行された地図も所蔵してい

る。ただし、併合前や直後に発行された秘密測量による地図は所蔵していない。

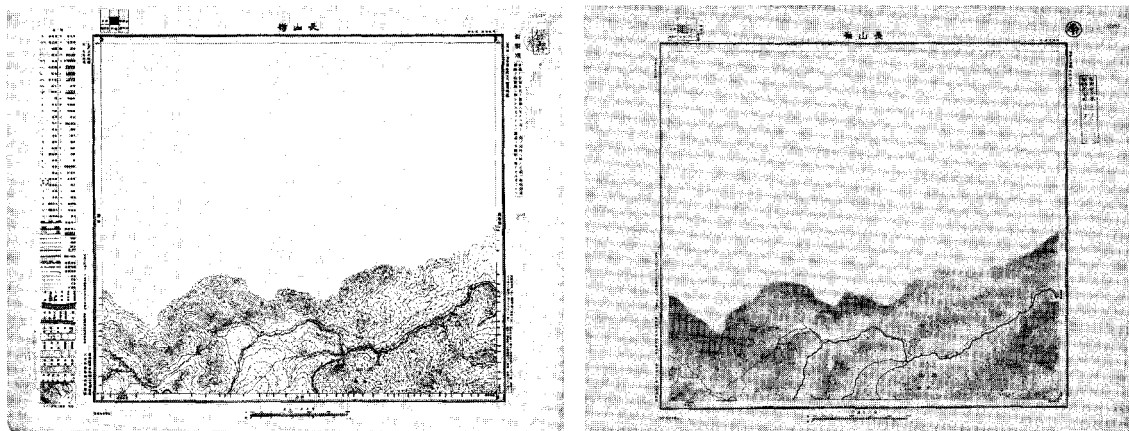
朝鮮の地形図は、日本では『朝鮮半島五万分の一地図集成』（学生社、1981）として既に複製されており、本学の所蔵図も使用されている。この地図集には、一部の地域について地形図ではなく交通図と呼ばれる地図が収録されている。交通図とは、地形図から等高線を除いて地形を陰影のみで表現した地図であり、朝鮮では1926年（昭和元年）から発行されている。本学のコレクションにも多数の交通図が含まれているが、同時にこの地図集には収録されていない地形図も所蔵していることが目録の編集を通じて確認できた。これらの地形図は、日本国内ではこれまで人の目に触れる機会が少なかったものと想像される（図4）。当該地形図は、朝鮮と中国の国境付近を対象とする10点であり、いずれも資源科学研究所から再配布を受けたものである。これらが収録されなかったのは、地図集の出版に際し、資源科学研究所から受け継いだ貴重な地図ではなく、本学が戦前に教材として購入し、消耗品として扱われていた交通図を含む市販の地図を出版社に貸し出したことによる³⁾。本学のコレクションには、この他にも各種の複製地図集に収録されていない地図が含まれている可能性がある。

また、本学だけが所蔵する地図には特殊な地図も多く、なかでも航空に関するものが充実している。参謀本部・陸地測量部が発行した航空図に加え、海軍水路部発行の秘密航空図（図5）、さらに航空気象図と呼ばれる一連の気象図も存在する

（図6）。航空気象図は、中央気象台によって1943年から翌年にかけて作製されたもので、日本を中心に西はインドから東はハワイまで、北はカムチャツカから南はオーストラリアまでの範囲を対象に、毎月の地上風や500mから6,000mまでの上層風、視界、天気などを主題とした11種の図幅から構成されている。各図幅の裏面には上層風配図や主要航空路の気象概況など航空気象に関する情報と解説文が掲載されており、戦後日本地理学界の気候学者や地球物理学界の気象学者が執筆者に名を連ねている。

そして、本学のコレクションにおいて最も特色ある地図は兵要地誌図であると思われる。兵要地誌図とは、図7に示したように、既製の地形図などをベースに、軍事行動にかかわる様々な地誌的情報を記載した地図のことである。本学のコレクションには、1943年以降に発行された南方地域のものを中心に73点が存在する（表3）。特にニューギニアとインドネシアを対象とした1943年発行の地図、フィリピンと南洋群島を対象とした1944年発行の地図が多く、当時の戦線の推移との関連が推測される。兵要地誌図は1930年代といった比較的早い時期に、中国や満州などを対象としたものが作製されているが、該当する地図は本学に存在しない。このことも、本学の外邦図の多くが終戦時に参謀本部が所蔵していた地図に由来するためであろう。

また、コレクションのなかには、同一範囲を対象としながらも地誌的情報の記載内容が異なる地図も存在する。図7に示した地図は、参謀本部が



a) 未収録の地形図

b) 収録された交通図

図4 『朝鮮半島五万分の一地図集成』に未収録の地形図と収録された交通図 長山嶺

1943年に東部ニューギニアのマーカム川流域を対象に調製したものであったが、同年8月にラバウル駐留の剛部隊（第8方面軍）写真印刷班が編纂した同一範囲の地図もある。後者の備考には、参謀本部調製の兵要地誌資料に加えて、現地部隊による空中偵察や実調査、宣教師と土民（原文ママ）の諜報により作製された旨が明記されている。こちらの地図には参謀本部の表記がないことから、現地部隊が軍事作戦用に作製した地図が日本の参謀本部に送られ、現在まで残っているものと考えられる。他にも現地部隊が作製したと思しき、広東省水路網図という地図がある（写真2）。この地図は、1943年8月に波集団（第23軍）司令部により広東省の50万分の1図を14枚つなぎ合わせたものをベースマップとして作製された。これには、渡河にかかわる情報や河口部の状況が詳細に書き込まれており、作製時期からみて大陸打通作戦との関連が推察される。このように、兵要地

誌図には検討すべき課題が多い。

V. むすびにかえて—今後の課題—

本稿では、本学が所蔵する外邦図コレクションの全体像を明らかにしてきた。その一部は、2002年度に本学で開催された人文地理学会大会で展示を行ったように、特別に公開する場合もある。ただし、現在のところ、学外からの検索やコピーサービスの依頼に対応できる体制は十分には整っていない⁴⁾。その背景には、外邦図の管理・公開業務に対する人力的な制約と、地図自体の保管に関する問題がある。これらの課題について最後に述べることで、本稿を締め括ることにする。

人員に関する課題は、大学予算の制約が近年ますます強まっていることから、解決はほぼ絶望的な見通しである。一方、地図の保管に関する課題は、前途に光明を見出し得る。それは、地図のデ

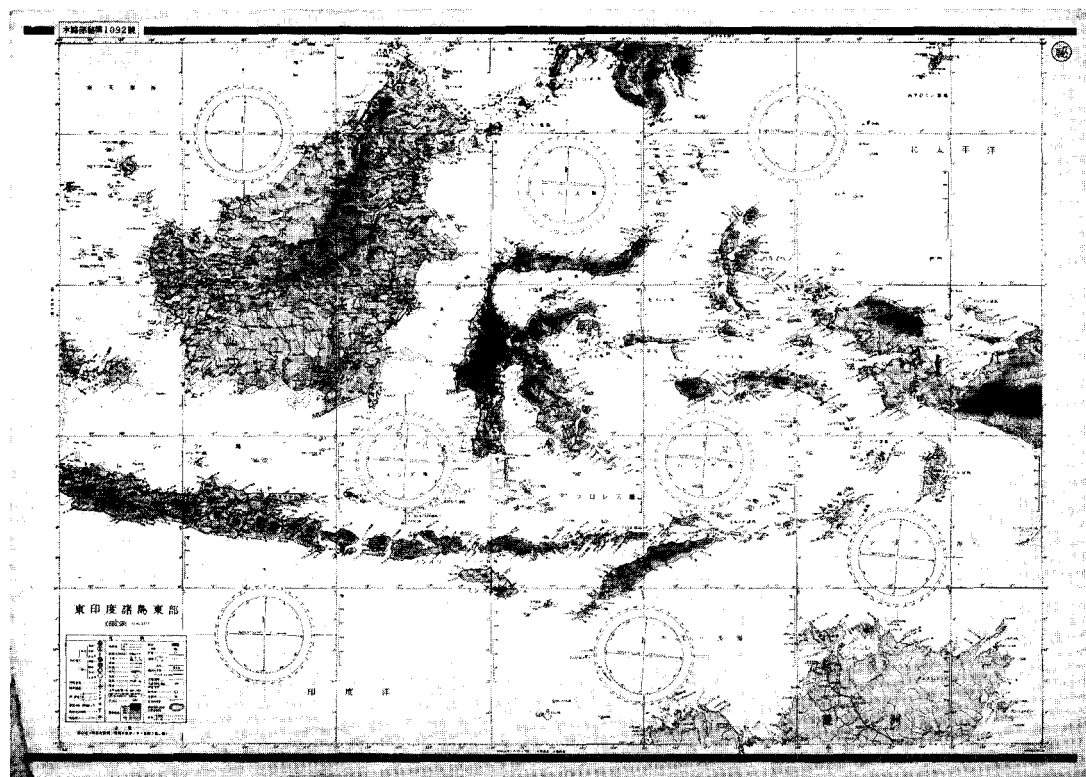
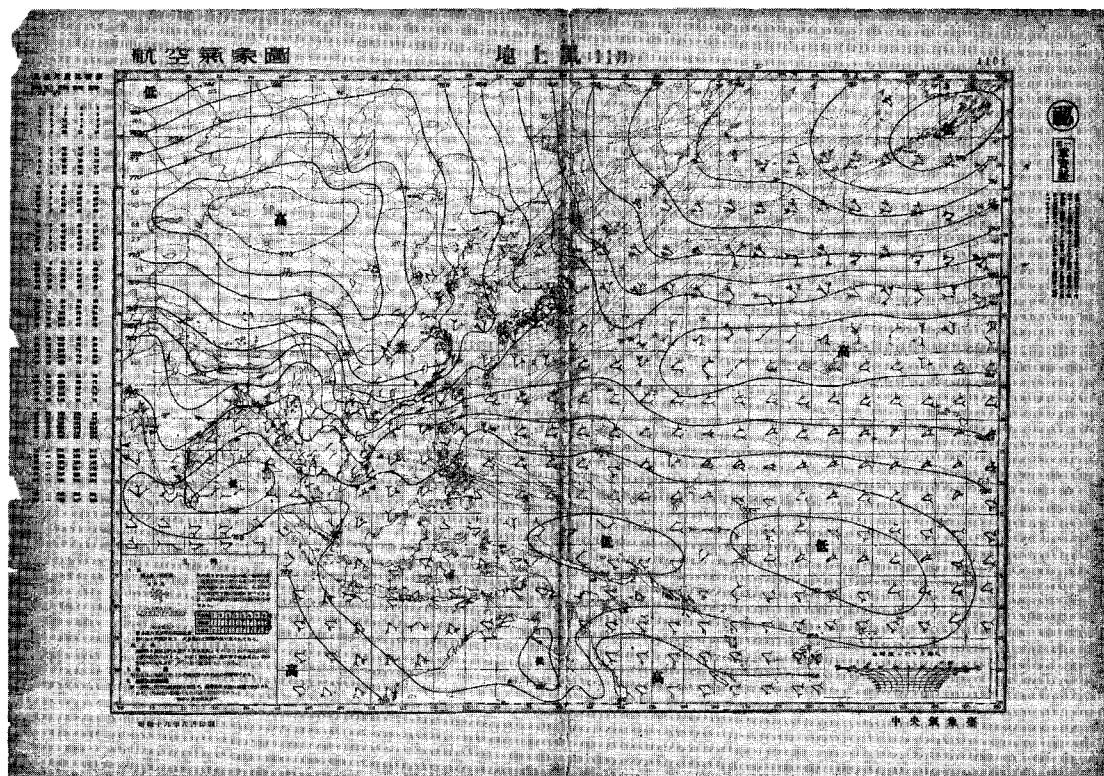


図5 海軍水路部秘密航空図 東印度諸島東部

日本海軍の水路部が1941年（昭和16年）5月に発行した航空図であり、飛行場や不時着場、航空燈台（燈色別）の位置などが表記され、地形に関しては標高が段彩形で表現されるなど彩色豊かな地図である。図郭の上下には朱色の太線が記入されているが、これは軍事用の秘密図であることを示している。



a) 表面



b) 裏面 (一部拡大)

図6 航空気象図 地上風 (11月)

ここに示した図幅は11月の第一図である。青色で地上風・海上風・等圧線が示され、赤色で上層風・低気圧経路が示されている。「作成に十分な時間が費やされなかったため誤謬は次回に訂正する予定である」と注記されている。航空気象図は軍用資源秘密保護のため取り扱いが厳重で、保管状態が変わる場合は発行者に報告し、不要となった場合には発行者に返却しなければならなかった。

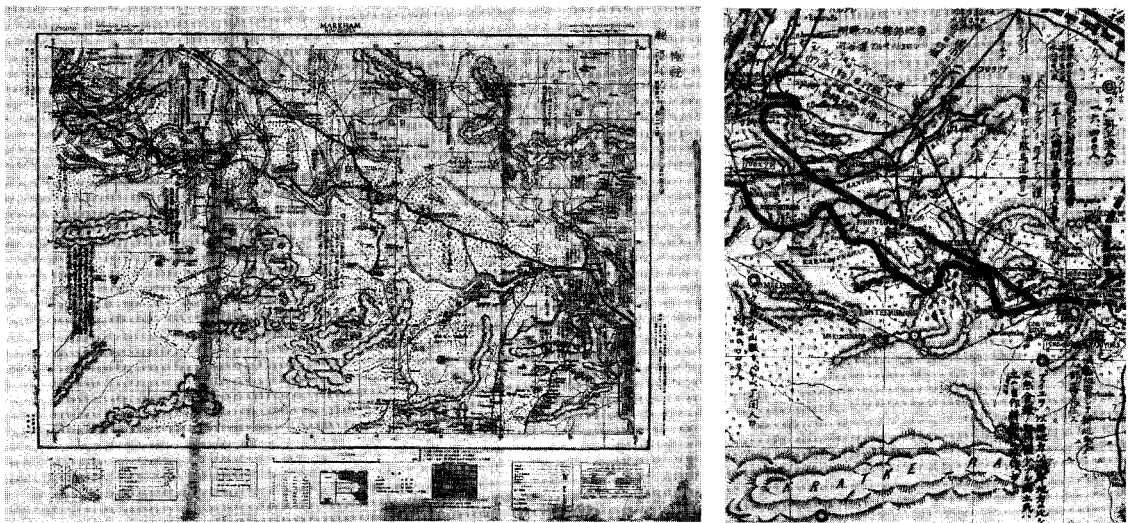


図7 兵要地誌図 東部ニューギニア（フォン半島及「マダン」地区）5号

参謀本部・陸地測量部が1942年（昭和17年）に製図・発行、1943年（昭和18年）に調製。ベースマップはオーストラリアが1942年に作成した6色刷4マイル1インチ図（25万3,440分の1）である。参謀本部・陸地測量部は4マイル1インチ図を縮尺25万分の1に引き伸ばし灰色・水色・薄緑色の3色で発行した後、赤色と青色で軍事的情報を追記した。そのため「秘」の文字が赤色で「極秘」に改められている。

デジタル画像化とアーカイブシステムの構築である（宮澤ほか、2004；村山ほか、2005）。現在、外邦図に関するデジタルアーカイブの作製委員会を関連大学間で組織しており、本学の教員もそれに参加している。既に、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）を受けて東北大学が所蔵する5千点余りの地図がデジタル化され、そのうち約1,500点の画像がインターネット上で公開されている⁹⁾。このプロジェクトは、2007年度も同研究費に採択されており、次年度以降も引き続き採択された場合には本学の地図もデジタル化を行い、アーカイブシステムに登録する予定である。

このデジタルアーカイブの構築には、大学間における権利関係の調整も必要とされるが、なによりも外邦図の保護と公開・利用の促進を少ない労力で両立できる手段として期待される。ゆえに、少なくとも本学だけが所蔵する2,700点余りの地図に関して、重点的な保管対策を講じながら、デジタル化に備えることが今後の課題である。地理学教室では、昨年度大判のスキャナを購入するなど、外邦図のデジタル化への準備は始めている。

実のところ、本誌「お茶の水地理」の発行団体であるお茶の水地理学会と外邦図には深い関係がある。前述のとおり、朝鮮地形図の復刻集（学生

社、1981）には本学が戦前に教材として購入・所蔵していた消耗品扱いの地図が一部に使用された。1982年に本学地理学教室の同窓会組織であったお茶の水地理談話会が、お茶の水地理学会として再出発する際の基礎資金となったのが、その時の地図の使用料であった。つまり、外邦図は地理学教室だけでなくお茶の水地理学会にとっても大切な財産といえるのである。本稿が、外邦図の今後について、ともに考えるきっかけになれば幸いである。

【付記】 本稿の作成にあたり東北大学卒業生の渡辺信孝氏から多大な協力を得た。また、小林 茂先生（大阪大学教授）をはじめ外邦図研究会の先生方からは、長年にわたりご指導をいただいている。以上の皆様に心より感謝申し上げる。末筆ではあるが、本学の外邦図と関連が深かった故・浅井辰郎先生に本稿を謹んで捧げたい。

注

- 1) プロジェクトに参加した本学の教員は、2002年度から2005年度までが栗原尚子と内田忠賢（現・奈良女子大学教授）、2006年度からは宮澤仁である。
- 2) 以降、本稿で使用する外邦図のデジタル画像は、お

表3 お茶の水女子大学が所蔵する兵要地誌図類

| 番号 | 地域 | 題名 | 作製機関 | 作製年等 | サイズ (cm) | 縮尺 | 色 |
|----|------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------|-------------|-----------|-------------------------|
| 1 | グアム | 瓦無島施設要図 | — | (昭和16年) | 79×108 | 1:100,000 | 2色(黒・赤) |
| 2 | 南洋群島 | テナアン島兵要地誌資料図付ア ギグアン島 | 参謀本部 | 昭和19年調製 | 95×73 | 1:25,000 | 2色(黒・赤) |
| 3 | 南洋群島 | ロタ島兵要地誌資料図 | 参謀本部 | 昭和19年2月調製 | 79×110 | 1:25,000 | 2色(黒・赤) |
| 4 | 南洋群島 | クサイ島兵要地誌資料図 | 参謀本部 | 昭和19年3月調製 | 75×89 | 1:20,000 | 2色(黒・赤) |
| 5 | 南洋群島 | 「ヤップ」島兵要地誌資料図 | 参謀本部 | 昭和19年5月調整 | 73×55 | 1:72,571 | 4色(黒・赤・青・緑) |
| 6 | 中国 | 広東省水路網図 | 波集団司令部・波集団 司令部写真印刷班 | 昭和18年8月製版/ 昭和18年9月印刷 | 193×210 | 1:500,000 | 7色(青・水色・黒・ 緑・黄緑・赤・茶) |
| 7 | 香港 | 防御施設図 | — | — | 80×110 | 1:25,000 | 3色(黒・赤・青) |
| 8 | 香港 | 防御施設図 | — | — | 110×80 | 1:25,000 | 3色(黒・赤・青) |
| 9 | 香港 | 防御施設図 | — | — | 79×80 | 1:25,000 | 3色(黒・赤・青) |
| 10 | フィリピン | 比律賓50万分1兵要地誌資料図 (第6号) | 参謀本部 (波集団調査図複製) | 昭和19年製版(昭 和19年1月調査) | 89×64 | 1:500,000 | 2色(黒・赤) |
| 11 | フィリピン | 比律賓50万分1兵要地誌資料図 (第7号) | 参謀本部(波集団調査 図複製) | 昭和19年製版(昭 和19年1月調査) | 89×64 | 1:500,000 | 2色(黒・赤) |
| 12 | フィリピン | 比律賓50万分1兵要地誌資料図 (第10号) | 参謀本部(波集団調査 図複製) | 昭和19年製版(昭 和19年1月調査) | 89×64 | 1:500,000 | 2色(黒・赤) |
| 13 | フィリピン | 比律賓50万分1兵要地誌資料図 (第11号) | 参謀本部(波集団調査 図複製) | 昭和19年製版(昭 和19年1月調査) | 89×64 | 1:500,000 | 2色(黒・赤) |
| 14 | ビルマ | 緬甸兵要地誌図 | 岡1601部隊 | 昭和18年8月製版 | 78×61 | 1:500,000 | 3色(茶・赤・青) |
| 15 | アンダマン・ ニコバル諸島 | カー・ニコバル島兵要地誌図 | 参謀本部 | 昭和19年1月調製 | 81×64 | 1:50,000 | 3色(黒・赤・青) |
| 16 | インドネシア | スマトラ兵要地誌図 第2号 | 参謀本部(南方軍総司 令部調製図複製) | 昭和19年製版(昭 和18年調製) | 63×100 | 1:750,000 | 3色(黒・赤・青) |
| 17 | インドネシア | スマトラ兵要地誌図 第9号 | 参謀本部(南方軍総司 令部調製図複製) | 昭和19年製版(昭 和18年調製) | 62×73 | 1:750,000 | 3色(黒・赤・青) |
| 18 | インドネシア | サンギヘ諸島兵要地誌資料図 | 参謀本部 | 昭和19年7月調製 | 77×110 | 1:100,000 | 4色(黒・青・赤・緑) |
| 19 | インドネシア | タラウド諸島兵要地誌資料図 | 参謀本部 | 昭和19年7月調製 | 77×110 | 1:100,000 | 4色(黒・青・赤・緑) |
| 20 | インドネシア | 「ブル」島兵要地誌資料図 | 参謀本部 | 昭和18年12月調 製 | 64×80 | 1:250,000 | 5色(茶・赤・青・水 色・黄土) |
| 21 | インドネシア | バリ島兵要地誌図 | 岡第1601部隊調製・ 治第1602部隊印刷 | 昭和18年2月 | 64×90 | 1:200,000 | 6色(黒・茶・赤・ 橙・青・緑) |
| 22 | インドネシア | スンバワ島兵要地誌図(西部) | 岡1601部隊 | 昭和18年1月調査 | 65×77 | 1:250,000 | 2色(黒・赤) |
| 23 | インドネシア | スンバワ島兵要地誌図(東部) | 岡1601部隊 | 昭和18年1月調査 | 65×77 | 1:250,000 | 2色(黒・赤) |
| 24 | インドネシア | 「ダマル」島兵要地誌資料図 | 参謀本部 | 昭和18年12月調 製 | 54×52 | 1:200,000 | 3色(黒・赤・青) |
| 25 | インドネシア | 「アル」諸島兵要地誌図(第2版) | 岡第1601部隊(製版)・ 岡第1371部隊(印刷) | 昭和18年3月15日 製版, 同発行 | 108×79 | 1:250,000 | 2色(赤・茶) |
| 26 | チモール | チモール島兵要地誌図(東部) | 岡第1601部隊調製 | 昭和19年1月調製 (昭和18年8月調査) | 77×109 | 1:250,000 | 3色(茶・青・赤) |
| 27 | チモール | チモール島兵要地誌資料図(其2) | 参謀本部 | 昭和18年10月調 製 | 71×95 | 1:250,000 | 3色(黒・赤・橙) |
| 28 | ニューギニア | 蘭領ニューギニア明細図 | 参謀本部 | 昭和17年2月 | 62×84 | — | 2色(黒・赤) |
| 29 | ニューギニア | 旧オランダ領西部ニューギニア 兵要地誌図(第1版)其1 | 南方軍総司令部(製 版)・岡第1371部隊 | 昭和18年1月製版, 同発行 | 79×110 | 1:500,000 | 2色(青・茶) |
| 30 | ニューギニア | 旧オランダ領西部ニューギニア 兵要地誌図(第1版)其2 | 南方軍総司令部(製 版)・岡第1371部隊 | 昭和18年1月製版, 同発行 | 79×110 | 1:500,000 | 2色(青・茶) |
| 31 | ニューギニア | 旧オランダ領西部ニューギニア 兵要地誌図(第1版)其3 | 南方軍総司令部(製 版)・岡第1371部隊 | 昭和18年1月製版, 同発行 | 79×110 | 1:500,000 | 2色(青・茶) |
| 32 | ニューギニア | 旧オランダ領西部ニューギニア 兵要地誌図(第1版)其4 | 南方軍総司令部(製 版)・岡第1371部隊 | 昭和18年1月製版, 同発行 | 79×110 | 1:500,000 | 2色(青・茶) |
| 33 | ニューギニア | 旧オランダ領北部ニューギニア 兵要地誌図(第1版)其2 | 南方軍総司令部(製 版)・岡第1371部隊 | 昭和18年1月製版, 同発行 | 79×110 | 1:500,000 | 2色(青・茶) |
| 34 | ニューギニア | 旧オランダ領南部ニューギニア 兵要地誌図(第1版)其1 | 南方軍総司令部(製 版)・岡第1371部隊 | 昭和18年1月製版, 同発行 | 79×110 | 1:500,000 | 2色(青・茶) |
| 35 | ニューギニア | 旧オランダ領南部ニューギニア 兵要地誌図(第1版)其2 | 南方軍総司令部(製 版)・岡第1371部隊 | 昭和18年1月製版, 同発行 | 79×110 | 1:500,000 | 2色(青・茶) |
| 36 | ニューギニア | サルミ近傍要図1号 | 雪第3520部隊参謀 部・参謀本部 | 昭和19年2月製版 | 92×64 | 1:50,000 | 1色(黒) |
| 37 | ニューギニア | サルミ近傍要図2号 | 雪第3520部隊参謀 部・参謀本部 | 昭和19年2月製版 | 92×64 | 1:50,000 | 1色(黒) |
| 38 | ニューギニア | サルミ近傍要図3号 | 雪第3520部隊参謀 部・参謀本部 | 昭和19年2月製版 | 109×78 | 1:50,000 | 1色(黒) |

表3 お茶の水女子大学が所蔵する兵要地誌図類 (続き)

| 番号 | 地域 | 題名 | 作製機関 | 作製年等 | サイズ (cm) | 縮尺 | 色 |
|----|----------|--------------------------------------|-----------------------|---------------------|-------------|-------------------|--------------------|
| 39 | ニューギニア | 東部パプア兵要地誌図 (其1) | 参謀本部 | 昭和18年7月製版 | 79×98 | 1:500,000 | 5色 (黒・青・赤・緑・茶) |
| 40 | ニューギニア | 東部パプア兵要地誌図 (其2) | 参謀本部 | 昭和18年7月製版 | 79×98 | 1:500,000 | 5色 (黒・青・赤・緑・茶) |
| 41 | ニューギニア | 東部パプア兵要地誌図 (其3) | 参謀本部 | 昭和18年7月製版 | 79×98 | 1:500,000 | 5色 (黒・青・赤・緑・茶) |
| 42 | ニューギニア | 東部パプア兵要地誌図 (其4) | 参謀本部 | 昭和18年7月製版 | 79×98 | 1:500,000 | 4色 (黒・青・赤・茶) |
| 43 | ニューギニア | 東部パプア兵要地誌図 (其5) | 参謀本部 | 昭和18年7月製版 | 79×98 | 1:500,000 | 6色 (黒・青・赤・緑・茶・紺) |
| 44 | ニューギニア | 東部パプア兵要地誌図 (其6) | 参謀本部 | 昭和18年7月製版 | 79×98 | 1:500,000 | 5色 (黒・青・赤・緑・茶) |
| 45 | ニューギニア | (ルーゼラン, 19号) | 剛部隊写真測量班 | 昭和18年8月編纂 | 29×71 | 1:250,000 | 3色 (黒・赤・青) |
| 46 | ニューギニア | 「ベナベナ」「ハーゲン」地方兵要地誌図 (其の1) | 剛部隊参謀部 | 昭和18年8月編纂 | 48×86 | 1:250,000 | 3色 (黒・赤・青) |
| 47 | ニューギニア | 「ベナベナ」「ハーゲン」地方兵要地誌図 (其の3) | 剛部隊参謀部 | 昭和18年8月編纂 | 57×82 | 1:250,000 | 3色 (黒・赤・青) |
| 48 | ニューギニア | ラエサラモア付近要図 | 剛部隊写真測量班 (攻撃時敵軍より入手) | 昭和18年7月印刷 | 81×58 | 1:126,721 | 2色 (黒・赤) |
| 49 | ニューギニア | (MARKHAM) | 剛部隊参謀部 | 昭和18年8月編纂 | 58×82 | 1:250,000 | 3色 (黒・赤・青) |
| 50 | ニューギニア | 東部ニューギニア (「フォン」半島及「マダン」地区) 兵要地誌資料図4号 | 参謀本部 | 昭和18年1月調製, 同発行 | 79×82 | 1:250,000 | 3色 (黒・赤・青) |
| 51 | ニューギニア | 東部ニューギニア (「フォン」半島及「マダン」地区) 兵要地誌資料図5号 | 参謀本部 | 昭和18年調製 | 58×82 | 1:250,000 | 5色 (黒・赤・青・緑・茶) |
| 52 | ニューギニア | 東部ニューギニア (「フォン」半島及「マダン」地区) 兵要地誌資料図7号 | 参謀本部 | 昭和18年調製 | 60×81 | 1:250,000 | 6色 (黒・赤・青・水色・緑・黄土) |
| 53 | ニューギニア | (マウントハーゲン, 11号) | 剛部隊参謀本部 | 昭和18年8月編纂 | 58×23 | 1:250,000 | 3色 (黒・赤・青) |
| 54 | ニューギニア | (サラモア) | 剛部隊写真測量班 | 昭和18年7月印刷 | 57×46 | 1:63,360 | 2色 (黒・赤) |
| 55 | ニューギニア | ニューブリテン島兵要地誌図 | 参謀本部 (剛部隊写真測量班調製図複製) | 昭和18年製版 (昭和18年2月調製) | 58×109 | 1:500,000 | 2色 (黒・赤) |
| 56 | ニューギニア | ニューブリテン島兵要地誌図 (七月中旬現在) | 剛部隊参謀部, 剛部隊写真測量班 | 昭和18年5月編纂, 同7月印刷 | 46×91 | 1:250,000 | 3色 (黒・赤・青) |
| 57 | ニューギニア | ニューブリテン島兵要地誌資料図 (其1) | 参謀本部 | 昭和19年1月製版 | 47×62 | 1:500,000 | 4色 (黒・青・赤・紺) |
| 58 | ニューギニア | ニューブリテン島兵要地誌資料図 (其2) | 参謀本部 | 昭和19年1月製版 | 47×62 | 1:500,000 | 4色 (黒・青・赤・紺) |
| 59 | ニューギニア | ニューブリテン島兵要地誌資料図 (其3) | 参謀本部 | 昭和19年1月製版 | 47×62 | 1:500,000 | 4色 (黒・青・赤・紺) |
| 60 | ニューギニア | ニューブリテン島兵要地誌資料図 (其4) | 参謀本部 | 昭和19年1月製版 | 47×67 | 1:500,000 | 4色 (黒・青・赤・紺) |
| 61 | ニューギニア | ニューアイルランド島兵要地誌資料図1号 | 参謀本部 | 昭和19年1月製版 | 47×64 | 1:150,000 | 4色 (黒・青・赤・紺) |
| 62 | ニューギニア | 「トレス」海峡状況図 | 南方軍総司令部調製, 岡第1371部隊印刷 | 昭和18年1月調製, 同印刷 | 108×160 | 1:290,000 | 2色 (赤・茶) |
| 63 | ソロモン諸島 | ソロモン諸島兵要地誌図 (其1) | 参謀本部 | 昭和18年8月製版 | 79×102 | 1:150,000 | 3色 (黒・青・赤) |
| 64 | ソロモン諸島 | ソロモン諸島兵要地誌図 (其2) | 参謀本部 | 昭和18年8月製版 | 47×103 | 1:150,000 | 3色 (黒・青・赤) |
| 65 | ソロモン諸島 | ソロモン諸島兵要地誌図 (其3) ニュージョージア島付近兵要地誌図 | 参謀本部 | 昭和18年8月製版 | 79×109 | 1:150,000 | 3色 (黒・青・赤) |
| 66 | ソロモン諸島 | ソロモン諸島兵要地誌図 (其4) | 参謀本部 | 昭和18年8月製版 | 79×99 | 1:150,000 | 3色 (黒・青・赤) |
| 67 | ソロモン諸島 | ソロモン諸島兵要地誌図 (其5) | 参謀本部 | 昭和18年8月製版 | 79×100 | 1:150,000 | 3色 (黒・青・赤) |
| 68 | ソロモン諸島 | ソロモン諸島兵要地誌図 (其6) ボーゲンビル島兵要地誌図 | 参謀本部 | 昭和18年8月製版 | 79×100 | 1:150,000 | 3色 (黒・青・赤) |
| 69 | ソロモン諸島 | ニュージョージア島付近兵要地誌図 | 剛部隊写真測量班 | 昭和18年5月調製, 同7月印刷 | 84×111 | 1:150,000 | 2色 (黒・赤) |
| 70 | ニューカレドニア | 「ヌメア」及付近要図 (附図第10) | — | — | 54×77 | — | 2色 (黒・赤) |
| 71 | ココス諸島 | 「ココス」島地誌図 | 岡第1371部隊 | 昭和18年複製 | 110×74 | 1:50,000 | 2色 (黒・赤) |
| 72 | アリューシャン | アリューシアン群島地誌図其一 (アッツ島・ウニマク島) | 陸地測量部・参謀本部 | 昭和17年3月調査, 同4月発行 | 79×110 | 1:3,000,000 | 2色 (茶・赤) |
| 73 | アリューシャン | アリューシアン群島地誌図其二 (ダッチハーバー・ウナラスカ湾) | 陸地測量部・参謀本部 | 昭和17年3月調査, 同4月発行 | 79×110 | 1:12,000&1:40,000 | 2色 (黒・赤) |

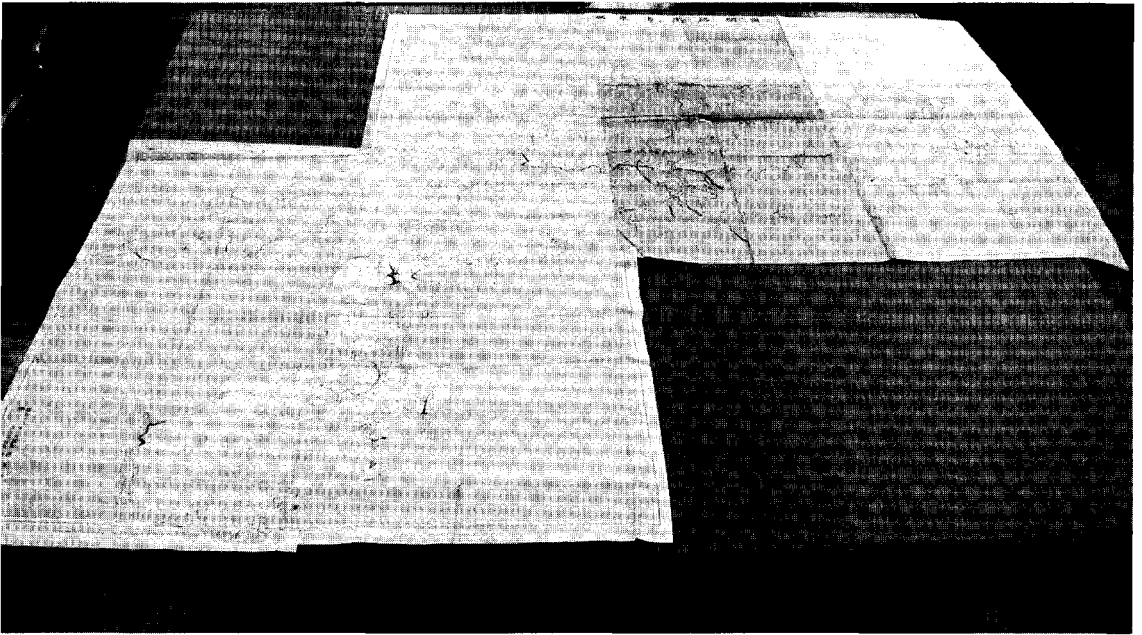


写真2 広東省水路網図

茶の水女子大学地理学教室ならびに東北大学地理学教室の大判スキャナ（A0版）を使用して作成したものである。なお、前者の大判スキャナは、2006年度お茶の水女子大学追加配分研究経費（採択者：水野勲、田宮兵衛、宮澤仁）を受けて購入した。

- 3) 第8回外邦図研究会（2007年2月17日）における武正英・お茶の水女子大学名誉教授の講演内容による。
- 4) 外邦図の利用に関しては岐阜県図書館世界分布図センターと国立国会図書館が便利であることを付言しておく。
- 5) 外邦図デジタルアーカイブは、以下のインターネットサイトで閲覧できる（2007年4月確認）。なお、本学と東北大学で重複している地図に関しては、既に本学の所蔵状況を確認することができるようになっている。URL <http://dbs.library.tohoku.ac.jp/gaihozu/>

文献

浅井辰郎（1999）：琉球諸島の地形図はどんな経緯でお茶の水女子大学に入ったか。清水靖夫・浅井辰郎・小林 茂・安里 進編『大正・昭和 琉球諸島地形図集成 解題』，柏書房，23-26。

大浦瑞代（2003）：お茶の水女子大学所蔵分の外邦図に関する現況報告。外邦図研究ニュースレター，第1号，41-42。

お茶の水女子大学文教育学部地理学教室（2007）：『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』，お茶の水女子大学文教育学部地理学教室。

学生社（1981）：『朝鮮半島五万分の一地図集成』，学生社。

京都大学総合博物館・京都大学大学院文学研究科地理学研究室（2005）：『京都大学総合博物館収蔵外邦図目録』，京都大学総合博物館・京都大学大学院文学研究科地理学研究室。

小林 茂（2006）：近代日本の地図作製と東アジア外邦図研究の展望一。E-journal GEO，第1巻，52-66。（<http://www.soc.nii.ac.jp/ajg/ejgeo/115266kobay.pdf> 2007年4月確認）

高槻幸枝・大浦瑞代（2005）：お茶の水女子大学所蔵外邦図目録の作成作業について。外邦図研究ニュースレター，第3号，117-118。

田村俊和（2000）：東北大学理学部自然史標本館所蔵の外邦図。地図情報，第20巻3号，7-10。

東北大学大学院理学研究科地理学教室（2003）：『東北大学所蔵外邦図目録』，東北大学大学院理学研究科地理学教室。

長岡正利（1993）：陸地測量部外邦図作成の記録一陸地測量部・参謀本部 外邦図一覧図一。地図，第31巻4号，12-25。

長澤良太（2005）：旧日本軍撮影の空中写真の特徴。地図情報，第25巻3号，20-25。

久武哲也（2005）：日本および海外の諸機関における外邦図の所在状況とその系譜関係。地図情報，第25巻3号，7-11。

水見山幸夫・村田久美・谷藤陽子・佐藤太一（2000）：

- 中国土地利用・被覆変化情報ベースの開発. 北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研究報告, 第34巻, 17-30.
- 源 昌久 (2004): 関東軍の兵要地誌類作成過程に関する一考察: 書誌学的研究. 淑徳大学社会学部研究紀要, 第38巻, 203-218.
- 宮澤 仁・村山良之・上田 元 (2004): 「外邦図」のデジタル画像化とアーカイブ構築に向けてー東北大学における試行作業からー. 季刊地理学, 第56巻, 163-168.
- 村山良之・宮澤 仁・渡辺信孝 (2005): 外邦図目録の作成からデジタルアーカイブ構築まで. 地図情報, 第25巻3号, 12-15.
- 渡辺信孝 (1999): 東北大学理学部所蔵の外邦図とその活用のためのデータベース. 季刊地理学, 第51巻, 148-149.
- 渡辺理絵・小林 茂 (2004): 日本ー中国間の地図作製技術の移転に関連する資料について. 地図, 第42巻3号, 13-28.
- Kikuchi, T., Zhan, G. M., Himiyama, Y. and Miyazawa, H. (2000): Map analysis of land use and cover changes in the northern part of Huabei plain, China. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University*, 35, 99-111.
-
- みやざわ・ひとし
お茶の水女子大学大学院 准教授
たかつき・ゆきえ
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 複合領域科学専攻
おおaura・みずよ
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 複合領域科学専攻
たみや・ひょうえ
お茶の水女子大学大学院 教授
みずの・いさお
お茶の水女子大学大学院 准教授

Introduction and Overview of the *Gaihozu* Collection in Ochanomizu University

Hitoshi MIYAZAWA, Yukie TAKATSUKI, Mizuyo OURA, Hyoe TAMIYA and Isao MIZUNO

Gaihozu are maps of areas outside the Japanese territory, such as China, Manchuria, Southeast Asia, and Pacific Ocean islands, which were prepared and reproduced by the General Staff Office of the former Japanese Army from the Meiji Era until the end of World War II. The *gaihozu* collection of Ochanomizu University consists of approximately 12,900 pieces, making it the largest of its kind among universities in Japan. It is currently housed in the map room of the Department of Geography of the university. This collection is made up of (1) maps purchased from the Institute of Resource Sciences (these maps originally came from the General Staff Office at Ichigaya, Tokyo, at the end of the war), (2) maps collected during the time of the Tokyo Women's Higher Normal School, the precursor of Ochanomizu University, and (3) maps donated by various individuals affiliated with the Department of Geography of Ochanomizu University. In addition to topographic maps, the collection features also aeronautical charts, marine charts, and geological maps, and while centering on Asia and the Pacific, it covers a vast area ranging from Alaska in the east all the way to Europe in the west. Compared with the collections of other universities, the present collection features as many as 2,700 unique pieces, and it is distinguished by the fact that it includes a large number of topographic maps of old territories (Korean Peninsula, Taiwan), Manchuria (now Northeastern China), and Indonesia, as well as numerous aeronautical charts, marine charts, etc. The inclusion of 73 military maps is particularly notable. Military maps consist of regular topographic maps annotated with a wealth of geographic information related to military operations, and Ochanomizu University owns a large number of such maps detailing southern territories that were prepared in 1943 and later.